新・みやぎ・シー・メール第４３号

Miyagi　Sea　Mail　発行：令和３年　９月１５日

宮城県水産技術総合センター　〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL:　0225-24-0159　FAX:　0225-97-3444

夏はマガキの産卵期

養殖生産チーム

宮城県は広島県に次ぐマガキの生産地ですが（以下カキ），カキ養殖に欠かせない種ガキの生産県としても有名で，全国各地に種ガキを出荷しています。「種ガキ」とは，カキの稚貝のことで，海中に浮遊しているカキの赤ちゃん（幼生といいます）を原盤と呼ばれるホタテガイの貝殻に付着させ，1cm 前後まで育てたものです。ＮＨＫの朝ドラでも主人公の妹が種ガキの研究をしていましたね。今回は種ガキの採苗について紹介します。

１　カキの発生

カキは雌雄異体で，産卵期は 6～8 月です。水温の上昇や台風等による海水の攪拌などが刺激となって卵や精子を海水中に放出し，受精することで幼生となります。カキの幼生は海水中を浮遊しており，植物プランクトンを食べながら成長します。約 2 週間の浮遊生活を経て，付着期幼生に成長し，岩場などお気に入りの場所をみつけて付着し，稚貝になります。

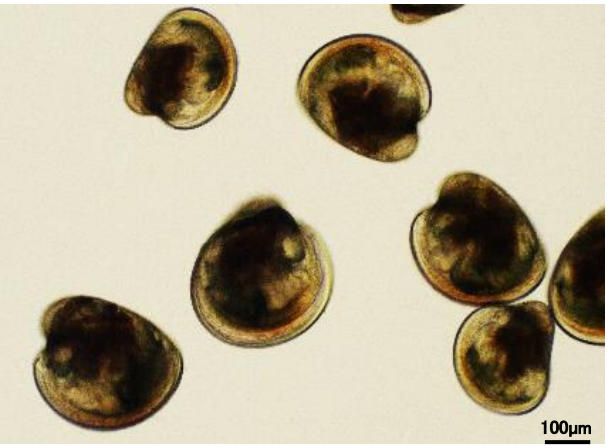

写真１　付着期幼生(250μm 程度)

２　種ガキ採苗

種ガキは，写真 1 の付着期幼生が出現する時期に原盤を海中に吊るし，幼生を原盤に付着させ確保します。採苗のポイントは，原盤の投入する時期の選定です。生産者は狙い通りの数の幼生を原盤に付着させるため，7 月頃から定期的に海中の幼生の数や大きさなどをチェックしています。原盤投入の時期を誤ると，フジツボなどが付着して幼生の付着を妨げてしまうからです。

３　種ガキ調査について

当センターでは，生産者と協力して，定期的に浮遊幼生調査を行い，幼生の数や大きさ，分布状況などを調査し，「種ガキ通報」の発行を通して情報提供を行っています。本調査は，表層 2.5m をプランクトンネットで垂直に曳き，顕微鏡で様々なプランクトンの中からカキの浮遊幼生を見極めて大きさ別に計数しています。

大雨や強風で浮遊幼生が一気に散逸し，いなくなってしまうこともあるので，生産者は本調査の結果と天候などを考慮して，原盤投入の時期を決めています。

写真２　浮遊幼生調査の様子

４　令和３年の採苗状況

今夏は，水温が順調に上昇し，平年より数日早く，カキの産卵開始の目安とされる水温に達しました。梅雨明けも平年より 8 日早く，7 月中旬から晴れの日が続き，天候も安定していたため，主に 7 月中旬～8 月上旬にかけて原盤の投入が行われ，順調に採苗が終了しました。

今年採苗された種ガキは，早い地域では来年の 9 月以降に私たちの食卓に届くので，それまで健やかに育ってほしいと思います！